

良いとこ自慢・・・自分の園所が自信をもって誇りに思えるような取組  
ここを改善・・・主にこれまでの特定教育・保育施設評価の中で課題・改善点として挙げた内容の取組

<b>教育・保育目標</b> ・明るくて思いやりのある、あたたかな子ども ・豊かな感性や表現力を持つ子ども	・たくましくてよく考え、最後までやりぬこうとする子ども
---	-----------------------------

【目標達成計画】					
項目	園の現状や取組、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	成果	評価
共通課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症予防対策について</li> <li>必要品のタイムリーな調達及び備蓄</li> <li>マニュアル案策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マスクや消毒液など必要品を調達し、職員全員が感染しない、感染させない意識を常に持ち、仕事中及び仕事以外の時も気をつけて行動する。</li> <li>対応のあり方をマニュアル化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>収束するまで、今後もマスクや消毒液などの必要品の調達を継続する。携帯用スプレーの配布及び補充による感染防止に努める。</li> <li>園児の給食時のシールドを職員一丸となって考え、作成し、より使いやすいもの、消毒しやすいものに作り変えていく。</li> <li>適時、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、職員会議を開催し、情報を共有する。</li> <li>今回の対応結果（衛生、行事等）を記録にまとめ、収束時には、新型コロナウイルスに対応できるマニュアルを作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食時のシールドは、一回目に作成したものについて職員間で考えを出し合い、より消毒や収納し易いコンパクトなものが作成でき、給食時の感染防止に努めることができた。</li> <li>2度目の緊急事態宣言に合わせては、全園児の給食とおやつ座席を固定し、変更がある際は用紙に記録している。</li> <li>行事については、会議等で話を出し合いながら、コロナ禍で安全に且つ子どもたちのことを考えたものを構築し、実施することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マスク・消毒液等の備蓄ができています。職員全員に消毒液スプレーを配布し、日常生活の中でも習慣付け、予防の大切さの意識付けが定着してきています。</li> <li>給食時の飛沫感染予防のシールドガードを職員で制作し、使用した結果をもとに、さらに組み立て式で収納・消毒しやすいものに改良する等、職員がアイデアを出し合い、感染症予防に積極的に取り組んでいる。</li> <li>新型コロナウイルス感染予防・対応について、「実践していることや反省点」「職員会議録」「行事変更記録」等を、具体的に写真付きで整理し、「新型コロナウイルス感染予防・対応」「実践していることや反省点」「職員会議録」「行事変更記録」等を、具体的に写真付きで整理し、「新型コロナウイルス感染予防・対応」「実践していることや反省点」「職員会議録」「行事変更記録」等を、具体的に写真付きで整理し、「新型コロナウイルス感染予防・対応」</li> </ul>
良いとこ 自慢！	（保育内容面） ・子どもの成長や育ちの場面を十分に保育者間で共有し、保護者の方々へも発信していくよう取り組んでいる。 ・子どもたちが生き生きと園生活を送ることができるようかかわっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育活動の中で、一人ひとりのその日の物語を大切にしている。</li> <li>子どもたちが中心となるような保育者のかかわりを大切にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の園生活で子どもたちが学びとることや、気づくこと、感じることはそれぞれ違う。その中で、一人ひとりの物語を保育者がしっかりキャッチし認めて、保育者間での共有、保護者へのお伝えを行っている。</li> <li>子どもたちの主体性を大切にしながら興味、関心への方向性を見極め、クラス全体の保育活動を考えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どものエピソードを写真を用いながら、保育者間で共有できる場を設けている。その結果、課題として、目立たない子どもの姿が見えてこなかったため、「学びの姿記録表」というものを作り、子どもの姿を書き留めることで、保育者の気づきや見守り、文章で残す大切さが保護者に分かるようになってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>戸外で遊ぶ際には異年齢の関わりがあり、お楽しみ会などで他者と関わりながらグループで活動する機会が保障されている。徐々に自分たちで相談し、ものごとを進められるように工夫しようとしている。</li> <li>保育者の丁寧な関わりで、子どもたちが安心して自分を発揮できるようになっている。自分の思いと人の思いとのぶつかりを経験できるように配慮がなされ、次第に集団に馴染むように心がけられている。年長になるにつれ、相手のことを考えて行動することが理解できるようになっている。</li> </ul>
	（管理・運営面） ・保護者への対応において、保育者によって差が出ないように工夫している。月 ・指導案作成において、クラス担当全員で取り組み、共有した保育内容を考えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員間の細やかな情報共有ができるようにする。</li> <li>指導案の作成にあたり、クラス内で話し合う時間を今より増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者間の引き継ぎノートやクラス内での共有ノートを作り、共通認識につなげている。</li> <li>ノンコンタクトタイムを充実させる中で、保育者間のコミュニケーションを密にし、指導案作成の話し合い時間に結び付けていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラスノート等を用いることで、クラスの職員の共通理解がより図れている。（保護者の方が、どの保育者に尋ねられても話が通じるようになりつつある。）また、出勤者が減る土曜日の作業等の内容がわかる土曜日ノートの作成と活用が繋がっている。</li> <li>保育者全体で、サポートし合い、創意工夫し、クラス間のノンコンタクトタイムを捻出することで、時間内の指導案等の作成ができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議(月2～3回)や、随時ミーティング(行事・コロナ対策について等)を行い、職員間での情報共有に取り組んでいる。</li> <li>「電話連絡確認ノート」「クラス連絡ノート」「クラス共有ノート」「降園時引き継ぎノート(保護者へ伝達用)」「出欠ノート」で必要な情報を周知共有することで、職員間の連携がとれ、日々の保育や保護者への対応が円滑に行えるようになった。</li> <li>ノンコンタクトタイムを設け、職員のリフレッシュと職員間のコミュニケーションの充実が図られて、職員のモチベーションが向上している。ノンコンタクトタイムをクラスごとにとれるようにシフト調整に努め、指導案作成の話し合いや、コロナ禍での行事の開催方法の検討等につなげている。</li> </ul>
ここを 改善！	（保育内容面） ・職員全体の質の向上が課題。また、園全体のルールや保育の考え方を十分なコミュニケーションの中で共有していく。 ・危険箇所への認識を高め、皆が共通して意識できていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>勉強会やミーティング、会議などを設け、乳幼児理解を深める。</li> <li>ヒヤリハット事例を作り、保育者間で共有し、危険を防止する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドキュメンテーションを定期的に作成し、掲示をもって保護者の方々へ発信している。</li> <li>ドキュメンテーションの作成やミーティング会議については、クラス担当だけでなく、クラスを越えて集まる場を設け、子どもたちの姿を皆で喜び合い、共感しあう場を大切にしている。</li> <li>ハード面、ソフト面でのヒヤリハット事例を出し合い、日々の保育に生かして危険を防止している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの成長や活動に合わせて、クラス担任から自発的なドキュメンテーションの作成ができてつつある。完成したものは、クラスを越えて見たり、話し合ったりすることができており、保育者間の刺激にも繋がっている。</li> <li>ヒヤリハット事例の出し合いの結果、子どもたちへの小さな危険の報告が、これまで以上に意識してできてきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の子どもに寄り添う姿勢が見られ、安心して子どもたちが園で過ごしている様子が窺われる。年齢が上がるとともに、話し合う活動が取り入れられており、今後必要とされる力が身に付くと考えられる。園全体ではドキュメンテーションの作成に尽力されており、保護者にもわかりやすく伝えられている。</li> </ul>
	（管理・運営面） ・職員が働きやすいよう、居心地の良い職場環境を整えていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者間の必要なコミュニケーションを密にし、どの年数の保育者でも意見を言いやすい環境を作る。</li> <li>積極的な休日の取得やノンコンタクトタイムを設けて、仕事のメリハリをつける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コーチング研修を受講することによって、職員がより相談しやすい職場環境を構築し、持っている力を発揮できるようにする。</li> <li>目標管理の面談以外の面接回数を増やし、それぞれの職員がどのような思い、目標を持っているのか明確にし、サポート体制を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員がどんな思いをもって、日々仕事をしているかを知るために、上から助言するばかりでなく、質問し、本人がどのような目標を抱いているか、そして、その目標と現実とのギャップを近づけるためには何が必要なのかを話し合っている。</li> <li>面接回数を増やすために、年長者が数名、職員の取り組みをPDCAサイクルに当てはめ、サポートをし、面接の必要性を前もって判断する体制をとっている。</li> <li>感染防止の意味もあるが、職員の給食は、リラックスして子どもとは別室で取ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主幹教諭がコーチング研修を受講し、相談しやすい環境づくり、職員の資質向上に活かせるよう取り組んでいる。</li> <li>個別の「面接シート」を活用して、主幹教諭が年に2回目標管理の個人面談を行い、個人目標・進捗状況と一緒に確認することで、職員の思いを共有できるよう努めている。</li> <li>メンター制度を取り入れ、入職1年目の職員が2年目の先輩職員に相談しやすい環境を整備している。</li> <li>ノンコンタクトタイムの活用により、職員のリフレッシュ・コミュニケーションの充実が図られ、働きやすい職場環境づくりにつなげている。</li> <li>フリー職員を配置し、子どもの人数に応じて職員の配置変更を行う等、職員が休日を取得しやすいように工夫し、働きやすい職場環境づくりにつなげている。</li> </ul>